

## 香港通信 (1)

### 香港大学での在外研究編

大串葉子 (おおぐし ようこ)  
新潟大学

#### 1. はじめに

2015年9月から香港大学に滞在しております。到着して約2週間、学内のメールシステムや図書館を利用するための手続きも終わり、ようやくキャンパス内で迷子にならなくなりました。香港島西部にある中央キャンパスは、そんなに広くないはずなのですが、複数の高層ビルが様々な階層でつながっており、丘の中腹に立てられているというロケーションとあいまって、階によってまるで違う様相をみせています。研究室からは、1910年に建造された大学本部と、海と島、そして高層ビルやタワーマンションの集積を眺めることができます。そして、聞こえてくるのは広東語ばかり。「あれっ、英語はどこにいったの?」と思いきや、講義や学内のセミナー・講演会はほぼすべて英語で行われており、学生たちも講義中はすべて英語を使います。

香港は日本から一番近い「英語圏」でもあることから、観光などで訪れたことがある方も多いと思います。今後は、研究の拠点として、または、共同研



香港大学経済・経営学部経営学科長でMIS統括の周教授 (Prof. Chau) と秘書の林さん (Ms. Lam) と一緒に

究の場としても視野に入れていただけたらという思いで、香港通信をお届けします。今回は、香港大学に決まった経緯と研究環境についてお話します。

#### 2. 最初は「本命ではなかった」香港大学経済経営学部

在外研究や海外の大学への就職を考えている方にとって、どの国にするか、どの大学がよいかを選ぶ基準は何でしょうか。私の場合、「中小企業の企業間連携とIT活用」が主要なテーマのひとつであるために、当初は、日本の中小企業が多く進出しているタイの大学が本命でした。タイの大学で、英語での講義も豊富な大学を第1候補にしていたのですが、そんな大学はやはり人気があり、受け入れが3年後というお返事をいただきました。そんなには待てない、ということで、マレーシアかシンガポールの大学を考えていたところ、ある先生から「香港大学はどう?」とお話がありました。ただ、ご紹介いただいたところは文化や歴史研究が主流であり、受け入れ受諾の最終段階で研究プロジェクトを提出したところ、「プロジェクト内容に合致した適任者がいない」ということで、結局、話が振り出しに戻ってしまいました。

こうしたやりとりですでに半年以上を費やしていたため、勤務先への在外研究の申請締め切りが迫っていました。半ばあきらめ気分で「何のコネクションもないけど、香港大学の School of Business にアクセスしてみるか」と、研究プロジェクトを学部ホームページの info@ に送って、そのままそのことは忘れていました。そして、約3週間後、①いつから来るのか、②どんなアシストを必要としているのか、③ワーキングビザを取るように、との短いメールが届きました。あとで聞いたのですが、香港大学では、誰の紹介かよりも、どんな研究をしたいのか

が重視されるようです。

### 3. 研究環境

到着してまだ2週間ですが、思い描いていた以上に、国際化が進んでいました。毎週1, 2回行われる研究者と大学院生向けのセミナー講師は、世界各国の有名大学の教授陣が多く、最新の研究が報告、討議されます。1回のセミナーは約2時間あり、教員も大学院生も、プレゼンテーションの途中でも質問を投げかけ、討議が始まります。「あとで聞こう」「あれ、前提がおかしいな、聞き逃したかな。今質問していいかな」などと迷っていると、周囲がどんどん発言していきます。英語が洗練されていない学生も、そんなことは全くお構いなしに質問を投げかけます。「ああ、みんな同じことを疑問に思っているのだ」と安心したり、「こんな風に答えるんだ」と感心しているうちに、あっという間の2時間が過ぎていきます。多くの教員、特に教授は、香港以外の大学の教員を兼ねています（アメリカやイギリス、中国など）ので、その人脈でセミナーの発表者が決められているようですが、「発表者募集」のメールも配信されます。その際は、「〇〇ジャーナルのエディターがゲストとして来るから、ぜひチャレンジするように！」という言葉が添えられていることが多く、発表してアドバイスを受けることがジャーナルの掲載に直結していることがよくわかります。

香港はイギリス統治が長かったため、研究者や研究内容、教育体制もイギリスに近いとばかり思っていました。話されている英語はアメリカやカナダなまりが主流です。教員は、中国名を持つ人が多いので、大学や大学院などの高等教育の影響だろうと踏んでいたところ、実はカナダ国籍やアメリカ国籍だったりします。したがって、直接話をしてみないと、その人がどんなアイデンティティやネットワークを持っているかが判別できません。こちらは雑談で話をしていても、思っても見ない人から、「知り



横田絵理先生（慶應義塾大学）と香港大学の研究室にて

合いがいるよ、紹介しようか」という話をされて驚きます。中国はもちろん、東南アジアとも距離的に近く、訪問研究の拠点としても便利です。国際的な研究ネットワークの観点からも、研究には最適な場所のひとつではないかと思います。

### 4. おわりに

研究以外の観点からも、香港は過ごしやすい場所です。食事が美味しいのはもちろんですが、漢字の看板があふれていて見ているだけで楽しいですし、親日家も多くて、日本への旅行やリタイア後の滞在について相談！されたりします。

次回は、香港大学での講義のスケジュールや内容、日本との大きな違いなどについて記してみたいと思います。

#### 略歴

##### 大串 葉子（おおぐし ようこ）

1997年英国マンチェスター大学大学院修了、2000年九州大学大学院経済学研究院博士後期課程修了。博士（経済学、九州大学）。2001年新潟大学経済学部准教授（現在に至る）。